資料５

小 規 模 校 の 課 題

小規模校のメリット

○ 全教職員が，子ども全員を知ることができ，一人ひとりにきめ細かな指導ができる。

○ 子ども同士がよく知り合うことができ，家族的な雰囲気の中で学習することができる。

○ 同学年で大きな集団を形成することが難しいため，掃除などを縦割りで実施する機会が多く，他学年との関わりを深めることができる。

○ 子ども一人ひとりが主役として活躍する機会が多く，委員会活動など積極的にかかわることができる。

小規模校のデメリット

人間性･社会性を育成する面でのデメリット

○1学年が1学級の場合は，卒業まで同じ学級で過ごすことになり，学級の中での役割や子どもの価値観が固定化されがちであり，いじめ･不登校などの人間関係上の問題が発生した場合も，クラス替えによる問題解決ができない。

○友人同士やクラス間の対抗が少なくなり，切磋琢磨する機会が少ないため，競争心 や向上心が育ちにくい。

学習指導上のデメリット

○体育の集団で行う球技や音楽での合唱･合奏などは，子どもの集団が小さいために，実施そのものが難しい場合がある。

○小学校のクラブ活動，中学校の部活動の実施種目や中学校の選択教科のコース数が少なく，児童生徒が自ら選択するという経験に乏しくなる。

○話し合いで学習を行う場合に，人数が少なく多様な意見が出にくいため，学習内容の深まりや広がりが難しい。

小規模校のデメリット

学校運営・教員配置上のデメリット

○一人の教員が複数の校務分掌を掛け持ちすることが多くなるため，その処理に時間を要し，子どもに接する時間や教材研究を行う時間が制約される。

○同じ学年(小)や同じ教科(中)に教員がいないため，指導方法などについて相談することができず，教員相互の連携や切磋琢磨の機会が少なくなり，指導力の向上につながりにくい。

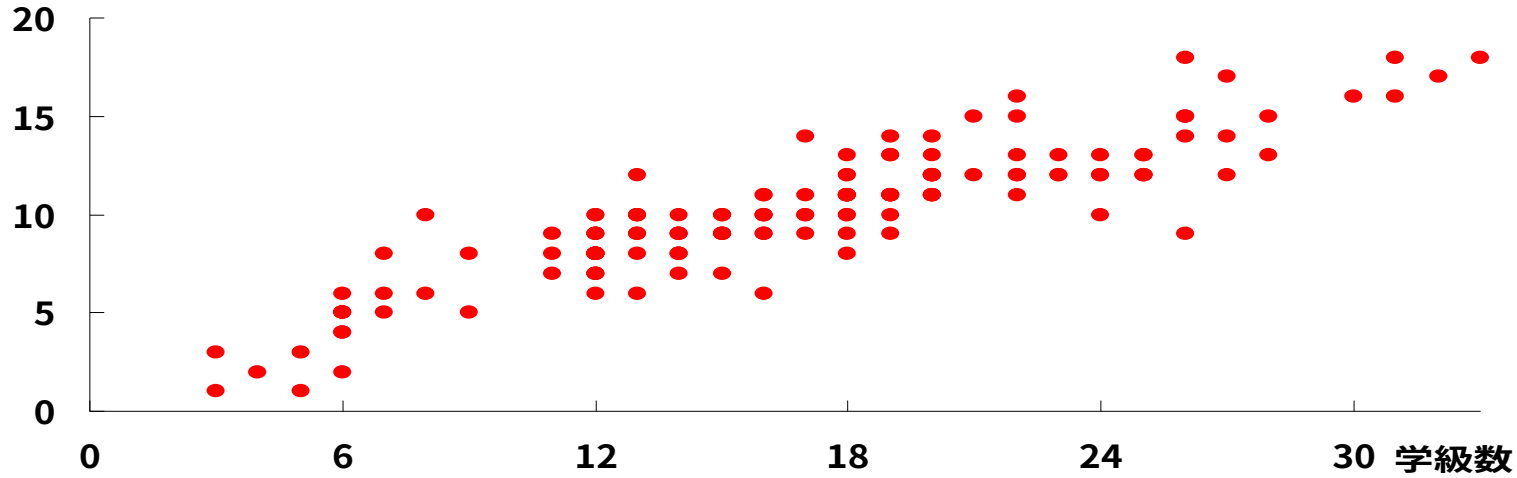
○中学校では，小規模の中学校で，学級数に応じて配置された教員数では，必要な授業時数に対応できない教科が生じる場合がある。

保護者の負担の面でのデメリット

○修学旅行のバス借り上げや卒業アルバム作成の際には，料金が割高になるため，金銭的負担が大きい。

学校規模と小学校のクラブ活動

①学校規模と実施数の関係　※平成19年度実績。　学級数は特別支援学級を除く。



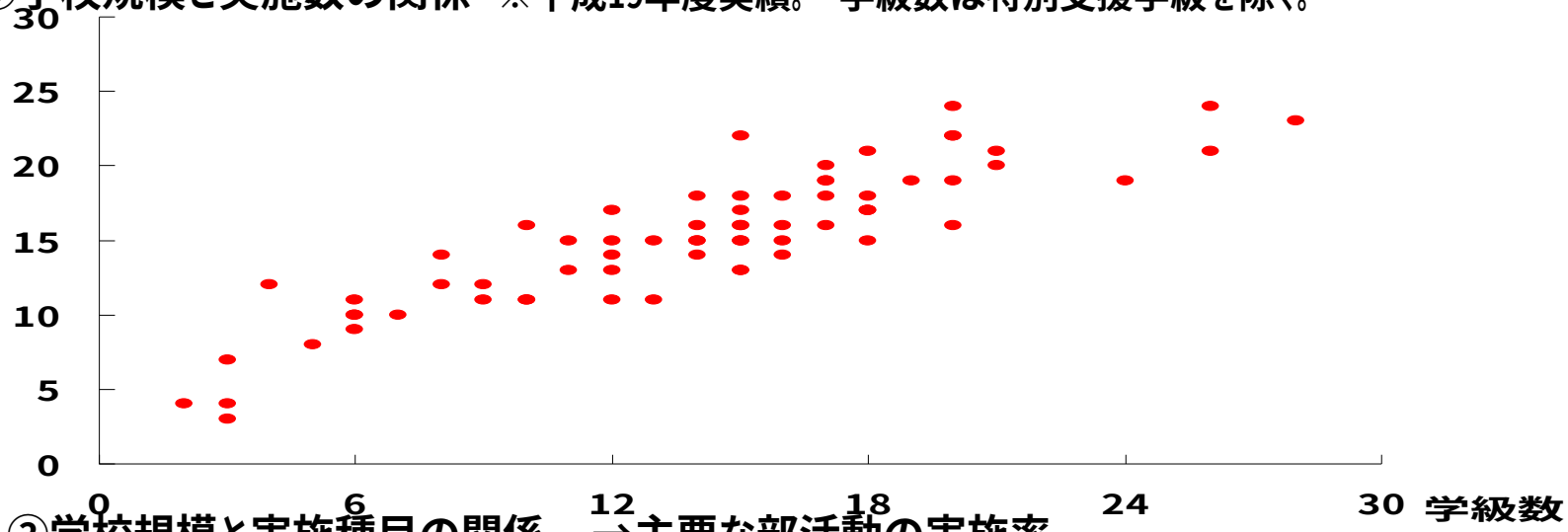
②学校規模と実施内容の関係　→主要なクラブ活動の実施率

学級数	学校数	パソコン	家庭科	卓球	バトミントン	マンガ・イラスト	サッカー	バスケットボール	理科図工	囲碁将棋
1～5	5	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
6～11	18	67%	33%	6%	33%	6%	6%	22%	17%	28%
12～23	99	85%	76%	64%	57%	51%	51%	48%	42%	39%
24～	24	92%	92%	83%	67%	83%	71%	54%	75%	46%
(実施学校数)		118	103	84	78	71	68	65	63	55

実施率が低く，児童の選択肢が少ない。

学校規模と中学校の部活動

①学校規模と実施数の関係　※平成19年度実績。　学級数は特別支援学級を除く。



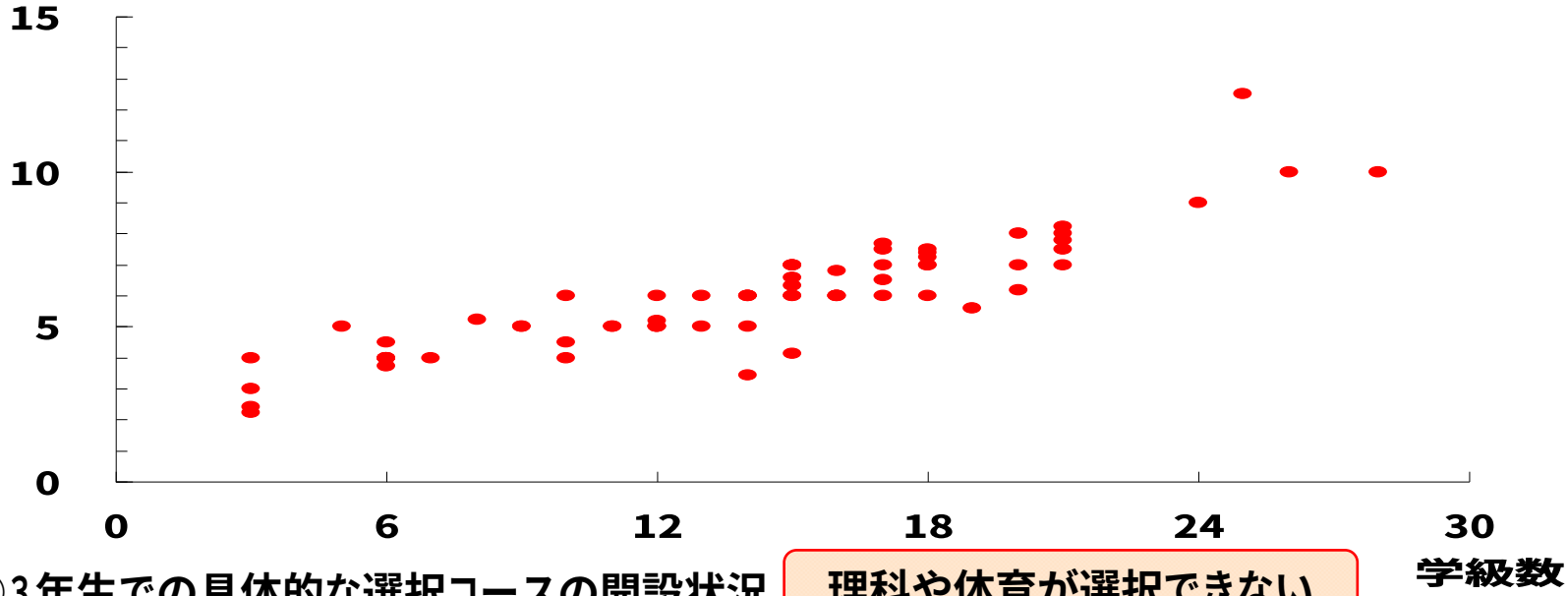
②学校規模と実施種目の関係　→主要な部活動の実施率

学級数	学校数	サッカー	野球	バレーボール	バスケットボール	テニス	卓球	陸上	剣道	ブラスバンド	美術
1～5	6	33%	17%	33%	33%	33%	17%	0%	33%	0%	17%
6～8	7	86%	86%	57%	86%	57%	43%	43%	43%	71%	71%
9～11	5	60%	100%	60%	100%	100%	80%	60%	60%	100%	80%
12～17	30	90%	100%	100%	100%	93%	60%	67%	87%	100%	83%
18～23	14	86%	100%	93%	100%	100%	86%	93%	79%	93%	86%
24～	4	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
(所属生徒数)		1,916	2,958	2,092	3,076	3,721	1,334	1,708	1,104	2,881	1,014

実施率が低く，生徒の選択肢が少ない。

学校規模と中学校の選択教科

①学校規模と3年生での選択コース数の関係　※平成19年度実施状況



②3年生での具体的な選択コースの開設状況

理科や体育が選択できない

A中学校(6学級：3年生2学級)

授業時数	実施形態	国語	数学	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	開設教科数	開設コース数
35時間／年	週1回×通年	1	1	1						1	4	4

生徒の選択肢が少ない

B中学校(18学級：3年生6学級)

授業時数	実施形態	国語	数学	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	開設教科数	開設コース数
35時間／年	週1回×通年	1	1	1	1			1		2	6	7

学 校 規 模 と 校 務 分 掌

主な校務分掌　[校務分掌をその職務内容の性格から分類]

① 校務を円滑に行うために，各学校の規模等に応じて設置されるもの。
（例）教務部，研究・研修部，生徒指導部，進路指導部，庶務部

② 福岡市の施策･事業として各学校に設置されるもの 。
（例）学校予算委員会，教材選定委員会，ゴミ減量・リサイクル委員会，食育推進委員会，小中連携推進委員会

③ ＰＴＡや地域代表などとの連絡調整の役割を持つもの 。
（例）いじめ防止対策委員会，学校サポーター会議，学校保健委員会

小規模校における校務分掌上の課題

○ 小規模校では，一人の教員が多くの校務分掌を担当したり，同じ校務分掌について相談する教職員がいない場合が多い。

⇩

◆組織的な業務分担が難しく，学校経営の面で課題がある。

◆校務分掌の処理に時間を要し，子どもと接する時間が減ってしまう。

学 校 規 模 と 教 員 配 置

小規模の中学校で，学級数に応じて配置された教員数では，必要な授業時数に対応できない教科が生じる場合がある。

そこで

対応できない授業時数について，市費で非常勤講師を配置している。

しかし

非常勤講師は勤務時間が教科指導に限られ，部活動の指導ができないなどの問題がある。

＜非常勤講師配置校(平成20年度：９校)＞

学級数	学　　校　　名
3	能古中，北崎中，玄界中，照葉中
5	千代中
6	東住吉中，住吉中，志賀中
8	博多中

※ 学級数は特別支援教育学級を除く。